

トルコ：公正発展党は再選挙で予想外の圧勝

2015年11月2日

<公正発展党は再選挙で予想外の圧勝>

11月1日(現地、以下同様)、トルコでは再選挙の投開票が実施され、AKP(公正発展党)は再び単独で過半数の議席を獲得した模様です。アナトリア通信(トルコの公式通信社)によると、開票が約99%終了した時点で、AKPは、単独過半数に必要な276議席を上回る316議席を獲得する見込みとなっています。

選挙前の世論調査では、AKPは6月と比較してわずかに得票を伸ばすものの、依然として過半数を獲得するには至らないとみられていたこともあり、予想外の勝利となりました。トルコでは深夜のため、市場の反応は十分でない可能性はあるものの、2日のトルコ・リラは対米ドルで3%程度上昇してスタートしました。

<選挙結果を受けて政治的不透明感は後退へ>

単独で過半数を獲得する政党が無かった場合には、連立交渉に時間を要することや、3度目の選挙による政治の空白期間の長期化が懸念されていましたが、今回の選挙結果を受けて、トルコの政治的な不透明感は大きく後退すると考えられます。

また、これまでエルドアン大統領は強力な大統領制を志向し、憲法の改正を通じて自身の権力や権限の拡大を目指してきました。しかし今回のAKPの獲得議席は「国民投票を通じた改憲が可能な議席数」である330議席には届かない見込みで、改憲や大統領制への移行を推進する際には野党の協力を取りつける必要があることから、権限が強化される可能性は低く、権力の集中に対する懸念も後退するとみられます。

(ご参考) 2015年と2011年の選挙結果比較

	15/11総選挙			15/6総選挙			11/6総選挙		
	議席数	構成比率(%)	得票率(%)	議席数	構成比率(%)	得票率(%)	議席数	構成比率(%)	得票率(%)
公正発展党(AKP)	316	57.45	49.41	258	46.91	40.87	327	59.45	49.83
共和人民党(CHP)	134	24.36	25.38	132	24.00	24.95	135	24.55	25.98
国民民主主義党(HDP)	59	10.73	10.70	80	14.55	13.12	53	9.64	13.01
民族主義行動党(MHP)	41	7.45	11.93	80	14.55	16.29	-	-	-
無所属等	-	-	-	-	-	-	35	6.36	-
欠員	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	550	100		550	100		550	100	

※2015/11総選挙結果はアナドル通信報道の99.58%開票時点の非公式結果を使用。

※2011/6総選挙時はクルド系政党の候補者は無所属で立候補、当選の後、クルド系政党(BDP)に属する形であった。

(出所)各種報道を基に大和投資信託が作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

大和投資信託

Daiwa Asset Management

<今後の経済運営に期待>

今後の注目は、組閣人事に集まると考えられます。特に経済関連の閣僚人事で、市場からの信認が厚いババジャン元経済担当副首相やシムシェキ財務相などが経済政策を担うかに注目が集まります。

AKPは、建国100周年となる2023年までに、経済規模で世界トップ10入りすることを目指しています。新興国全般において景気の減速感が漂う中、トルコにおいても景況感が悪化しており、単独政権を獲得した今、さまざまな政策を通じて経済成長を後押しすると考えられます。

これまで、政治的な不透明感が嫌気されてきましたが、今回の選挙結果が金融市場では好意的に受け止められると考えられることや、今後は政策に支えられた堅調な経済成長も期待できることから、トルコに注目が集まりやすいと考えられます。

以上